

サッカー育成年代における選手の監督に対する理想像について ～R 高校を事例にして～

明智 裕典 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 佐藤 馨

キーワード：サッカー，指導者，育成年代

1. 緒言

Jリーグ発足後，日本サッカーは急速に発展した。Jリーグの発展はもちろんだが，特にトレセン制度やサッカーアカデミーの開校など，育成年代の指導の活性化が日本サッカーの急速な発展につながっていると言える。監督は，サッカーの戦術や技術に対する知識はもちろん，選手のモチベーションやコンディションの管理，チームのマネージメントなど要求されるものは多い。サッカーの監督は，サッカーを上手く教えるだけでは務まらない仕事である。今後も日本サッカーが世界の上位に進出するためには，若年層の指導により力を入れていく必要がある。

2. 研究の目的

監督はプロサッカー選手相手でもサッカーの指導が最適だけでは指導がうまくいかないことは多々あり，選手を育成するうえで選手の考え方を知るといことはとても重要である。特に育成年代では，思春期を迎え人間関係を築く上でも非常に難しい年代である。

そこで本研究では，育成年代を指導する際の人選やより良い指導について考察することを目的とする。

3. 研究方法

1) 調査対象者

大阪府にある私立のR高校の男子サッカー部 46名

2) 調査方法：アンケート調査

3) 調査期間：2013年11月11日～11月20日

4. 結果と考察

調査の結果から，21項目ほとんどの質問に

対して，「非常にあてはまる」「あてはまる」の回答が多数であった。この結果から，監督という仕事は，指導力(ここではサッカーに関する指導力とする)，監督自身の意志力，選手に対するマネージメント能力，キャリアなど多くの要素も持ち合わせているということが監督として，必要条件と言える。また，高校生は思春期を迎え自立できておらず，人間関係を築く上でも非常に難しい年頃である。サッカー以外の日常生活の状況で様々な考えが交差する年代と言うことを考えると「選手に対するマネージメント能力」というのが，特に大事になってくるのではないかと考える。

5. まとめ

監督という仕事はサッカーの技術や戦術に対する知識はもちろん，選手のモチベーションやコンディションの管理，チームのマネージメントなど，要求されるものは多く，サッカーをうまく教えるだけでは務まらない仕事である。それに加えて高校サッカー選手権やインターハイの優勝という目標を成し遂げることとなるとサッカー部の監督という仕事は非常に責任が重く，場合によっては務まらない仕事だということが分かる。この結果は，育成年代を指導する際の人選や指導方法の参考にすることができ，より良い指導の一助になれば良いと思っている。

[引用・参考文献]

金 相煥 (2012)，育成年代のサッカー選手における監督の理想像についての一考察
—高校生と中学生の比較，芦屋大学論叢，
(56)，(-)，pp53-62.

